

令和5年度 第7回南アルプス IC 周辺高度活用計画検討委員会
議事録（要旨）

日 時	令和5年7月10日（月） 14：00～15：20	場 所	南アルプス市役所 本館3階 大会議室
出席者	<p>委 員：佐藤文昭委員長、大山勲副委員長、佐々木邦明委員、坂口裕昭委員、小池直己委員、花輪進委員、中込卓也委員、齊藤陽一委員、手塚美砂子委員、村松廣義委員、名取春樹委員、佐藤寛委員、横山瑞法委員 （欠席）野田清紀委員、中辻伸委員</p> <p>事務局：南アルプス市総合政策部 櫻本竜哉部長 南アルプス IC 新産業拠点整備室 野田剛理事、中込光司主幹、 金丸周平主査、河西政彦副主査</p>		
<p>次第</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 市長あいさつ 3 会長あいさつ 4 議 事 <ol style="list-style-type: none"> (1) パブリックコメントの報告 (2) 答申について 5 閉会 <p><以下、議事録>（議長：佐藤会長） 議題（1）パブリックコメントの報告（2）答申について 事務局より資料にて説明。</p> <p>【各委員の主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単なる開発、企業誘致に留まらず、地域内の経済を循環させ、地域資源や人を活かしながら、新たに参入する企業と共に地域を活性化させる計画。その実現のため、エリアマネジメント組織の早期立ち上げが重要。市民を巻き込みながら継続性をもって取組を進めてもらいたい。また、リニア開通も遅れているようだが、数年もすれば経済や開発への圧力が高まってくることも懸念される。そうなる前に基盤を固めることも重要。 ・地域の仕事を受ける上では、その地域を知ることが大切になっている。当初、市を訪れ、違和感があったのは駅が無いこと。まちづくりというと、駅前開発を起点とする事例が多い。市の歴史的背景を考えると、この環境下でまちづくりを進められたのは、先人の知恵などノウハウやリソースは既にあるからと考える。今回の計画においても全く新しいことを行うのではなく、今までの延長線上に新しい価値が生まれるという考えに至る。そう考えると、どのような企業が参入するかは重要でなく、この地に根付く覚悟があるかに尽きると思う。もう一つ、地域に行き行って感じることは、企業に限らず組織の中で、誰か一人でも私利私欲に動き始めた瞬間にすべてが瓦解する。視野を広げ利他という考えが重要。そういった意味では、 			

この検討委員会は様々な価値観が織り込まれており、勉強になった。最後に、時間の流れに堪えるものが最も価値あるものと考えている。ここに足を踏み入れる理由となるものが、このまちづくりから広がっていくことを期待する。

- ・この計画は、このエリアに限られた文脈ではなく、従来からの「南アルプス・ライフスタイル」をより魅力的にアピールできる形を IC 周辺の土地利用を通じ、実施していくと理解した。市民全員に考え方を共有していただきたい。この計画を実施するだけでなく、市民の皆さんがこれに基づいてまちづくりを考えることで、市はさらに魅力的になる。このことは他の先生方の意見と重複するがぜひ推進していただきたい。また、エリアマネジメントについても、このエリアに限ったことでなく市内の各地域やコミュニティで立ち上げることも可能であるため計画を活用して市全体に広げていただきたい。総合計画など市全体の計画にも反映していただきたい。
- ・新産業拠点地区の地域交流エリアと強い連携をもって進めていただきたい。
- ・市の人口が増加に転じたという報道があった。他地区に先駆けた子ども施策の効果もあったと思う。このトレンドを維持できるよう計画を推進してもらいたい。
- ・行政で特定用途制限区域の設定を主導し、地権者や市民、事業者など一体となり、虫食いや望ましくない土地利用とならないようにしてもらいたい。
- ・この計画と共に人をどう呼び込むかが一つのテーマ。ハードやソフトだけでなく、人があってこそ地域となる。都内など大都市圏に南アルプス市をアピールし、市を知ってもらい、呼び込む仕組みを作ることが重要。
- ・歴史、文化、風土といった南アルプス市ならではの延長戦上の開発となって欲しい。100年、200年後にも続いていくことが重要だと思う。世情を捉え、改定しながら進めていただきたい。また、今後委員会を立ち上げる際には、女性の意見も多く取り込めるよう工夫していただきたい。
- ・この事業は市民の関心が高い事業。情報発信を常に仕掛けていくことで、関心をさらに高め、巻き込んでいける事業となってもらいたい。長く続けられる事業との意見もあり重要だと思うが、コストコやリニア開通など差し迫っている中で、できることは迅速に進めてもらいたい。
- ・県や市議会など様々な人からこの計画について知りたいという声があった。個人的には南アルプス市は市民と政治が近く市民の意見がつながりやすいと感じている。この委員会やワークショップでの意見を参考にしてもらい、一緒に盛り上げていきたいと思っている。
- ・今後の個別計画の策定はどのように行う予定か。10~20年の事業スパンではジェネレーションギャップも意識した方が良い。

事務局：今後は、まずは地権者の皆さまとの合意形成に取り組み、併せて、関係機関との土地利用調整や企業誘致を並行しながら進めていく。本計画には、委員会でいただいたご意見・ご提案から従来の開発に留まらず、南アルプス市の魅力をさらに高められる取組みを目指していくということがしっかり記されているので、本計画を道標として事業を推進していく。

以上